

世界の異常天候とその影響評価 (16)

(Climate Impact Assessment, May, 1985)

1. 合衆国とカナダ—トルネード

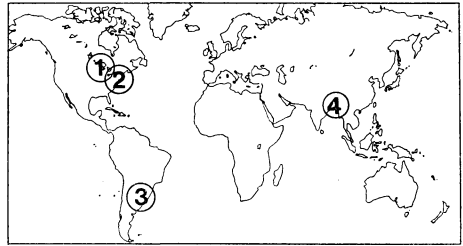
オハイオ、ペンシルバニア、ニューヨーク、カナダでは、強いトルネードのため、少なくとも91人が死亡した。被害が最も大きかったのはペンシルバニア州で、61人が死亡し、2億ドルの被害が生じた。レーガン大統領は、ペンシルバニア州の12件とオハイオ州の4件に対し、合衆国の災害補助の適用を宣言した。これは、11の州で315人が死亡し、6億ドルの被害を出した1974年のトルネード以来の最悪のトルネードである。なお、3月には、ノースカロライナ、サウスカロライナの両州で、トルネードのため、72人が死亡し、2億8千万ドルの被害が生じた。

2. 合衆国東部—少雨による給水制限

干ばつの影響を受けていた東部の海岸地方では5月の降水量は平年並であったが、水供給を平常の水準に回復させるためには、もっと多くの雨が必要である。ニューヨーク～ニュージャージーの大都市域では、貯水量が貯水池容量の70%になっており、給水制限が実施された。

3. アルゼンチン—強雨

報道によれば、5月31日に数時間にわたってブエノスアイレスを襲った強雨は、14人の死者を出し、運輸・電力等の公共サービスを混乱させ、9万人以上の人々を一時的に避難させることになった。



4. バングラデシュ—サイクロン・高潮

5月25日にバングラデシュの東部デルタ地帯を襲ったサイクロンと高潮のため、5千人以上が死亡し、22万5千戸の家屋が破壊されるかまたは損害を受けた。また、10万頭以上の家畜が死に、13万5千エーカー（約550 km²）にわたって農作物が被害を受けたと伝えられている。これは、20万人の死者を出した1970年のサイクロン以来の最悪のものである。死者は、5千～1万人と見積もられており、最近、これほどの死者を出した洪水害は世界でも例がない。千人以上の死者を出した最近の暴風雨は、1984年9月1～2日にフィリピンを襲って1,500人を死亡させた台風 Ike (11号) である。

注：上記各項目の番号は図中の番号に対応している。

(気候変動対策室 真野裕三)